

LESSON 5

Welcome to Our Town

伝えよう！ 町の魅力

教科書 pp.64-77

配当時数 7時間

授業進度 9月

◎この Lesson で教える内容を一覧します。

単元のねらい

- Part 1
  - ・これまで皆さんは、道案内をはじめ、町の案内をしたことがありますか？ より国際化した社会では、街中でも、外国人と出会う機会が増えてきています。特に、外国人に向けた町案内などは、彼らに手を差し伸べるだけでなく、自分たちのことも伝え、お互いを理解し合うのよい機会になります。どのようにすると自分たちの町や文化をよりよく紹介できるかについて、レッスンを通して考えていきます。
- Part 2
  - ・グローバル化と情報化の加速により、誰もが自分の住む地域や文化について容易に発信できる時代になりました。高校生が海外の人に向けて、日本の中で今まであまり知られていなかった場所を紹介することも可能です。高校生に、自分の住む地域と文化について誇りを持って世界に発信してほしいです。
- Special Activity
  - ・電車やバスを使った観光地への行き方についても説明できるようになり、また、それに加えて、行き先の特徴についても、一言加えられるようにします。道案内の際に、ただ目的地までの交通案内をするだけでなく、おすすめのポイントなどを一言加えると、そのことによってコミュニケーションをもっと深めていくことができるという体験にもつながっていきたいです。

言語材料

文法・文構造

Part	文法	本文	例文
Part 1	助動詞 can—可能 may—許可 may—推量 must—義務、指示  must—推量  should—助言、指示	○ ○	I <b>can help</b> you with that. You <b>may leave</b> now. It <b>may rain</b> this afternoon. We <b>must [have to] stop</b> at a red light. <i>cf.</i> You <b>must not</b> tell a lie. She <b>doesn't have to</b> attend the meeting. He <b>must be</b> tired after school. <i>cf.</i> His story <b>cannot be</b> true. You <b>should say</b> sorry to her.
Part 2	受動態 肯定文—現在 肯定文—過去 否定文 疑問文 疑問詞疑問文 助動詞を使う場合	○	French <b>is spoken</b> in about 30 countries. This picture <b>was painted</b> by a friend of mine. This program <b>is not watched</b> by many people. <b>Is the car made</b> in Japan? <b>When was the church built?</b> — In 1880. The room <b>must be cleaned</b> every day.

機能表現

Part 1	相づちをうつ、間をつなぐ	<input type="checkbox"/> Oh, .... <input type="checkbox"/> Wow, .... <input type="checkbox"/> Really?
Part 2	理由を述べる	<input type="checkbox"/> That's why ~.

語彙

Part 1	道案内	<input type="checkbox"/> turn left <input type="checkbox"/> at the traffic light <input type="checkbox"/> walk for two blocks	<input type="checkbox"/> turn right <input type="checkbox"/> on your left <input type="checkbox"/> across the river	<input type="checkbox"/> at the corner <input type="checkbox"/> on your right
Part 2	地域の特産物	<input type="checkbox"/> loquat <input type="checkbox"/> matcha green tea <input type="checkbox"/> sweet potato	<input type="checkbox"/> oyster <input type="checkbox"/> rice <input type="checkbox"/> radish	<input type="checkbox"/> sweet potato <input type="checkbox"/> chestnut

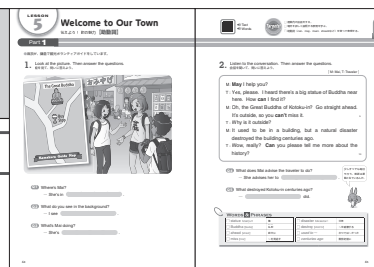
場面・言語活動

	題材・場面	主な言語活動
Part 1	本文： 観光の目的地について、事実や自分の考え、気持ちを伝え合うための基本的な語句や文を身に付ける。	Let's Talk： 観光の目的地について、助動詞や道案内の表現などを用いて、事実や自分の考え、気持ちを即興で伝え合う。
Part 2	本文： 地域の特徴やマスコットキャラクターについて、事実や自分の考え、気持ちを発表するための基本的な語句や文を身に付ける。	Let's Speak： 地域の特徴やマスコットキャラクターについて、受動態や地域の特産品を表す表現などを用いて、事実や自分の考え、気持ちを整理し、発表する。
Special Activity	電車やバスを使った観光地への行き方について、観光案内の表現などを用いて、事実や自分の考え、気持ちを即興で伝え合う。	

生徒たちの中でも、英語の習得が速い子、遅い子、発音力が優れている子、そうでない子とさまざまです。特に音感が優れていて発音が上手な子を、私たちノンネイティブの教師は、ついつい過大に評価してしまう傾向があります。でも、ちゃんと通じるかぎりには、発音に優劣はありません。皆の発音や個性を認め、どんな発音の生徒でも、平等に積極的に活動に参加できるおらかな環境をつくりましょう。



Part 1  
本文 → Let's Talk (1時間目)  
教科書 pp.64-65



目標 (本文 → Let's Talk)

- 目標
- 道案内の会話をする。
  - 場所を詳しく説明する。
  - 助動詞を使って表現する。

この単元の目標の達成度は、教科書 p.67 の Let's Talk の TRY で測ることができます。授業のはじめの段階で、生徒に評価基準表を配布するなどしてゴールを明確化し、それぞれの観点で、できるだけ高いレベルに到達できるように授業を進めていきます。

評価基準表 (Let's Talk (教科書 p.67) の評価基準表)

		A	B	C
知識・技能	文法・語彙	助動詞、道案内の表現を適切に使えている。	多少の誤りはあるが、理解に支障のない程度に、助動詞、道案内の表現を使えている。	「B」を満たしていない。
	発音・イントネーション	理解しやすい発音・イントネーションで話している。	一定の誤解や言いよどみはあるが、理解できる発音・イントネーションで話している。	「B」を満たしていない。
思考・判断・表現		観光の目的地について、基本的な語句や文を用いて、事実や自分の考え、気持ちなどを即興で伝え合っている。	観光の目的地について、準備をした上で、基本的な語句や文を用いて、事実や自分の考え、気持ちなどを伝え合っている。	「B」を満たしていない。
主体的に学習に取り組む態度		観光の目的地について、基本的な語句や文を用いて、事実や自分の考え、気持ちなどを即興で伝え合おうとしている。	観光の目的地について、準備をした上で、基本的な語句や文を用いて、事実や自分の考え、気持ちなどを伝え合おうとしている。	「B」を満たしていない。

授業に活かしたい英語の名言

We are each gifted in a unique and important way. It is our privilege and our adventure to discover our own special light. (Mary Dunbar)

解説

本文訳例

麻衣：お困りですか？  
旅行者：はい。教えてください。この近くに、大きな仏像があると聞いたのですが、どこにあるのでしょうか。  
麻衣：ああ、高徳院の大仏ですね？ 前方にまっすぐ行ってください。それは屋外にありますから、見逃すことはないですよ。  
旅行者：どうして屋外にあるのですか。  
麻衣：かつては建物の中にあったのですが、何世紀も前に、自然災害によって建物が壊されてしまったのです。  
旅行者：ああ、本当ですか？ その歴史についてもっと教えてくださいませんか。

教科書の Q&A 解答例

イラスト Q&A

Q1: Where's Mai?  
A: She's in Kamakura.  
Q2: What do you see in the background?  
A: I see some souvenir shops.  
I see Lizzy. Lizzy is playing kendama.  
Q3: What's Mai doing?  
A: She's giving directions to foreign tourists.  
She's volunteering.  
She's talking with travelers.

本文 Q&A

Q4: What does Mai advise the traveler to do?  
A: She advises her to go straight ahead.  
Q5: What destroyed Kotoku-in centuries ago?  
A: A natural disaster did.

補充 Q&A

\*時間に余裕があるときに、適宜参考にしながら出題してください。

イラスト Q&A

Q1: What is written on the T-shirt the foreign tourist is wearing? And what does it mean?  
A: It's "Bonsai." It's the art of growing a pine tree

in a small tray.

Q2: What does the boy on the right have?  
A: He has a camera.  
Q3: Tell me more about the picture.  
A: A gift shop in the background is selling interesting T-shirts.  
Mai is wearing a casual shirt today.

本文 Q&A

Q4: Is the traveler interested in the history of Kotoku-in?  
A: Yes, she is.

場面の情報

麻衣が鎌倉（長谷駅から少し北に行ったところ）で観光ボランティアガイドをしている。手前にいる麻衣以外の二人は日本への観光客である。背景にはおみやげ屋が見え、左手には参考として、大仏までの道順を示す観光パンフレットが掲載されている。

題材の情報

\*時間に余裕があるときに、適宜参考にしながら紹介してください。

・Kamakura「鎌倉」

About an hour by train from Tokyo, Kamakura is a beautiful seaside city with a great history. There are many historical shrines and temples. 「東京から約1時間の鎌倉は、素晴らしい歴史を持つ美しい海辺の町です。多くの歴史的な神社仏閣があります。」

・the Great Buddha of Kotoku-in「高徳院の大仏」

The giant outdoor statue, which is about 11.3m high and about 121t, is very famous as a symbol of Kamakura. The Buddha was initially inside a large temple hall. However, the building was destroyed by typhoons and tsunami in the 14th and 15th centuries.

「外にある巨大な像で、高さ11.3メートル、重さ121トンにも及び、鎌倉のシンボルとしてとても有名です。最初、大仏は大きなお堂の内部にあり

自分にしかない大切な能力が、ひとりひとりに宿っている。私たちには、自分自身だけの特別な光を発見する権利がある。それを見つける冒険に出よう。(メアリー・ダンバー)

ましたが、14世紀、および、15世紀の台風と津波で、建物が壊されてしまいました。」

### ・ the difference between temples and shrines 「寺と神社の違い」

Temples are dedicated to Buddhism, the religion imported from China in the 5th century. Shrines are dedicated to Shintoism, the indigenous religion of Japan. The easiest way to tell the difference between them is to find a *torii* gate, which can be found only in shrines.

「寺は、5世紀に中国から入ってきた宗教である仏教のためのものです。神社は、日本古来の宗教である神道のためのものです。それらをもっと簡単に見わけするには、鳥居を見つめます。鳥居は、神社にのみ見られます。」

#### 語句・表現の解説

\*時間に余裕があるときに、参考しながら説明してください。

#### 1. May I help you? (L. 1)

May I ~? で「許可」を尋ねます。「あなたを手助けしてもよろしいですか?」→「お困りですか?」となります。「はい」の返答は、Yes, please., 「いいえ」の返答は、お礼の表現を添えて Thank you, I'll be OK. と答えるとよいでしょう。

#### 2. It used to be in a building ... (L. 7)

used to ~で「過去の習慣や状態」を表します。

There used to be a bookstore here.

「以前、ここに本屋がありました。」

「過去の習慣」を表す used to と、would の違いに注意します。

I used to go to the movies.

「昔はよく映画館に行っていました(いまは行っていません)。」

I would often go to the movies when I was young.

「若い頃はよく映画を観に行ったものです。」

would も「過去の習慣」を表しますが、現在の対比を含みません。

#### 3. How can I find it? (L. 3) you can't miss it (L. 5)

can は「可能」や「可能性」を表します。

#### 3. Can you please tell me more about the history? (L. 9)

「～していただけますか(依頼)」の Can you ~? と Will you ~? の違いに注意します。

Can you ~? は「聞き手の可能性」を尋ねます。

「～してもらえますか?」の意味です。

Will you ~? は「聞き手の意志」を尋ねます。

「～という意志はありますか?」の意味です。

#### 4. Can の発音

can と can't の発音に注意します。

##### 肯定文・疑問文

→ 弱形でストレスがかかりません。

/kn/ 「クン」

##### 否定文

→ ストレスがかかり、強く発音します。

/kæ:nt/ 「キヤント」

#### 補充 Words & Phrases

\*必要に応じて、Words & Phrases を補充してください。

near hear 「この近くに」

You can't miss it. 「見逃すはずがありません。」

natural disaster 「自然災害」

#### 指導事例

段階	教科書	内容	学習形態
導入 (5分)	[p.64]	1. 教科書の内容に入る前に、日本に来る外国人観光客の人気観光スポットを推測させ、題材に興味を持たせる。 Imagine. What do you think is the most popular sightseeing spot in Japan among foreign tourists? <b>生徒の解答例</b> Kinkakuji, Kyoto Mt. Fuji Okinawa Asakusa, Tokyo Miyajima, Hiroshima <b>ヒント</b> 生徒にできるだけ多く、外国人観光客に人気の観光地を挙げさせて、背景知識の活性化を図ります。	一斉
	<b>場面イラスト</b>	2. 場面イラストにふれながら、簡単に題材内容を説明する。 Today, I would like to introduce one of the most popular sightseeing spots in Japan among foreign tourists. This is Kamakura. Kamakura is easily accessible from Tokyo, and it has both the sea and mountains. There are a lot of shrines and temples.	一斉
	<b>Targets!</b>	3. 単元のゴールを提示する。 In this lesson, your goal is to be able to guide a foreign tourist in English to the place he/she wants to go. Also, you can learn how to use 助動詞。 <b>ヒント</b> 目標を最初に示すことで、生徒は目標達成のために何を学習すべきかを理解することができます。	一斉
展開1 (10分)	<b>場面イラスト</b>	1. 生徒に教科書を開かせ、場面イラストに注目させる。 Everyone, open your textbook and look at the picture on page 64. This is a picture of Kamakura.	一斉
	<b>Q1</b> <b>Q2</b> <b>Q3</b>	2. 生徒をペアにして、Q1からQ3を交互に質問させる。 Pair up. Students on the window side, Question 1. Students on the hallway side, Answer 1. Students on the hallway side, Question 2. Students on the window side, Answer 2... Go. <b>ヒント</b> ペア活動の最中は、間違いを恐れず積極的に英語を使うように促します。	ペア
		3. クラス全体で答え合わせを行い、時間があれば、さらに追加の質問をする。	一斉

		<p>Let's check the answers. Question 1. Where's Mai? This question goes to (名前).</p> <p>I have some more questions. Please listen and answer.</p> <p><b>補充 Q&amp;A</b></p> <p>Q1 : What is written on the T-shirt the foreign tourist is wearing? And what does it mean?</p> <p>A : It's "Bonsai." It's the art of growing a pine tree in a small tray.</p> <p>Q2 : What does the boy on the right have?</p> <p>A : He has a camera.</p> <p>Q3 : Tell me more about the picture.</p> <p>A : A gift shop in the background is selling interesting T-shirts. : Mai is wearing a casual shirt today.</p>	
展開2 (25分)	<p>[p.65]</p> <p><b>WORDS &amp; PHRASES</b></p> <p><b>本文</b> ↓ <b>Q4</b> <b>Q5</b></p>	<p>1. WORDS &amp; PHRASES に着目させて、発音練習と意味の確認を行う。 Everyone, look at WORDS &amp; PHRASES on page 65, and repeat. 🔊 <b>ヒント</b> 状況に応じてネイティブの音声を使用します。</p> <p>2. 教科書を閉じ、本文の音声を聞かせる。その後、Q4とQ5の質問に答えさせる。 Listen to the conversation. Then answer the questions on the board (screen).</p> <p>3. 生徒をペアにして、Q4とQ5を交互に質問させる。 Pair up. Students on the window side, Question 4. Students on the hallway side, Answer 4. Students on the hallway side, Question 5. Students on the window side, Answer 5. Go.</p> <p>4. 生徒数名に質問し、全体で答えを確認する。 Let's check the answers. Question 4. What does Mai advise the traveler to do? This question goes to (名前).</p> <p>5. 教科書を開かせ、テキストを見ながら、再度本文の音声を聞かせる。 Open your textbook on page 65. Read the conversation silently while listening.</p> <p>6. 日本語と対比させながら、本文の意味を1文ずつ確認する。適宜、語彙や文法、発音の説明を加える。 例 : What does "Go straight ahead." mean in Japanese? Tell me an example of a "natural disaster"?</p> <p>🔊 <b>ヒント</b> can と can't の発音の違いにも注意させたいです。 🔊 <b>ヒント</b> 適宜、投影資料やプリント等を使用してください。</p>	<p>一斉</p> <p>個人</p> <p>ペア</p> <p>一斉</p> <p>一斉</p> <p>一斉</p>

	<p>7. 質問がないかを確認し、本文をリピート音読させる。 Do you have any questions? Listen to the conversation and repeat.</p> <p>8. 生徒をペアにして、麻衣と観光客のパートに分け、音読練習を行う。一度終えたら、役割を変えて両方の役割を練習する。 Pair up. Students on the window side, you are Mai. Students on the hallway side, you are the tourist. After you finish, switch your roles. Go.</p>	<p>一斉</p> <p>ペア</p>
--	---	---------------------

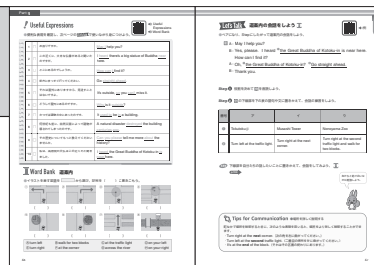
**Q** 本校の授業は1コマ50分ですが、どうしても生徒たちは授業のはじめから終わりまで集中力を維持することができません。なにか、生徒たちを最後まで引きつけるためにできる工夫はありますか。

どの学校でも先生が主導している授業の場合、子どもたちの集中力は10分程度でしょう。しかし生徒が主体的に学ぶようにすれば、その時間は伸びていきます。私たち大人に置き換えて考えてみても、ずっと座って話を聞いているのは無理ですよね。なので、子どもに活動させるしかないと思います。なんの疑問ももたずに、じっと長時間話を聞く従順さは生徒を依存型にし、変化の激しい社会に自律して生きる力が育ちません。自律でまず大事なのは生徒が自分で手段や内容、方法を選べるということです。「今から20分あげるから、1学期学んだ素材のどれでも、誰とどう学んでもいいから、目標を設定してそれを達成できるようにやってみてごらん」というように授業の中の一部でもよいの

で自由に生徒が決められる時間があるとよいでしょう。例えば「レッスン5の意味がわかって音読できるようになる」という目標を立てたとすれば、音読を練習したり意味を調べたりするでしょう。他にも「半分暗記するようにする」、「一部を自分の言葉に変えて言ってみる」や「書けるようになる」など、色々なレベルで自分たちで設定することができます。そういった機会がない子どもたちは空いた時間に遊んでしまうようになると思いますが、選択する経験をくり返すと、生徒たちは自分たちで何をやるかと考えられるようになります。理想としては僕が風邪を引いて休んだとしても自分たちで学べる子どもたちを育てたいですね。

【山本】

Part 1  
本文 → Let's Talk (2時間目)  
教科書 pp.66-67



解説

Word Bank 解答例

- ①—A turn left
- ②—E turn right
- ③—F at the corner
- ④—C at the traffic light
- ⑤—D on your left
- ⑥—H on your right
- ⑦—B walk for two blocks
- ⑧—G across the river

Let's Talk 発話例の訳例

- A: お困りですか?  
B: はい。教えてください。この近くに、大きな仏像があると聞いたのですが、どこにあるのでしょうか。  
A: ああ、高德院の大仏ですね? 前方にまっすぐ行ってください。  
B: ありがとう。

TRY の発話例

- 【例 1】  
A: May I help you?  
B: Yes, please. I heard Asahi Museum is near here. How can I find it?  
A: Oh, Asahi Museum? Go straight and you can find it at the next traffic light.  
B: Thank you.
- 【例 2】  
A: May I help you?  
B: Yes, please. I heard Midori Bookstore is near here. How can I find it?

授業に活かしたい英語の名言

If your eyes are blinded with your worries, you cannot see the beautiful sunset. (Jiddu Krishnamurti)

指導事例

段階	教科書	内容	学習形態
前時の復習 (10分)	[p.66] <b>Useful Expressions</b>	1. Useful Expressions の表現を数回リピートさせ、基本的な表現を確認する。 Everyone, look at Useful Expressions on page 66, and repeat.  2. 生徒の習得状況や時間の余裕に応じて、以下の活動を組み合わせて行う。 2-1. 生徒をペアにして、生徒の一人が英語を読み、もう一人が日本語を言う。 Pair up. Students on the window side, English. Students on the hallway side, Japanese. At random and with eye contact. Go. <b>ヒント</b> ペア活動の最中は、間違いを恐れず積極的に英語を使うように促します。 2-2. 生徒の一人が日本語を読み、もう一人が英語を言う。 Students on the hallway side, Japanese. Students on the window side, English. At random and with eye contact. Go. 2-3. 教師が日本語を読み、生徒は顔を上げて英語を言う。 I'll say Japanese. 1, 2, 3. Look up. You'll say English. For example, I'll say, “お困りですか?” 1, 2, 3. Look up. You'll say, “May I help you?”	一斉     ペア   ペア   一斉
展開 1 (5分)	<b>Word Bank</b>	1. Word Bank に着目させ、イラストと語句をマッチングさせる。 Everyone, match the pictures with the English phrases on page 66.  2. 答え合わせをしたあと、教師 (ネイティブ音声) のあとで数回リピートさせる。 Everyone, look at the Word Bank again, and repeat.	一斉   一斉
展開 2 (20分)	[p.67] <b>Let's Talk Step ①</b>   <b>Step ②</b>	1. 生徒をペアにして、A と B のパートに分け、音読練習を行う。一度終えたら、役割を変えて両方の役割を練習する。 Pair up. Students on the window side, you are A. Students on the hallway side, you are B. After you finish, switch your roles. Go.  2. 例の下線部を表の語句や文に置き換えて、会話練習を行わせる。一度終えたら役割を変え、両方の役を演じさせる。 Look at the table on page 67, and change the words and phrases for the underlined parts in the conversation. Example ア, students on the hallway side, you are A. Students on the window side, you are B. Example イ, students on the window	ペア     一斉



	<p>side, you are A. Students on the hallway side, you are B. When you finish, change your roles. Go.</p> <p><b>TRY</b> 3. 生徒に自分で考えた場所や行き方を用いて、道案内の会話を行わせる。ペア一度終えたら役割を変えて、両方の役を演じさせる。</p> <p>Create a conversation with your partner.</p> <p>Students on the window side, you are A. Students on the hallway side, you are B. After you finish, switch your roles. Go.</p> <p><b>ヒント</b> 必要に応じて付属の地図を配布します。会話は即興で行い、学んだ語彙や表現をできるだけ使いながら、会話を展開するように促します。</p>	ペア
振り 返り (5分)	<p>・「自己評価シート」を用いて、自己評価をさせる。</p> <p>Everyone, evaluate yourself with the rubric sheet.</p>	個人

**Q** 授業中、しらけた感じで参加しない生徒が何人いると、教師の私自身が自信を失ってしまふことがあり、授業が上手くいきません。そんなとき、どんな気持ちで授業にのぞんでいますか？

生徒たちも最初は、先生の様子をうかがうので、すぐには感情を外に出してこないことが多いです。私の場合も、そのような生徒たちが何人いると、とても気になってしまうのですが、同時に授業に積極的に参加している生徒のほうが大多数なので、そちらのほうに目を向

けましょう。皆が楽しくやっていると、徐々に教室の空気もその方向になびいてきます。十代は多感な時期なので、さまざまな反応をする生徒がいると思いますが、生徒全体に目を向け、一人でも多くの生徒が楽しめる授業をやりたいですね。 【安河内】

## Part 1 Grammar for Speaking and Writing 教科書 pp.68-69

### 目標

#### 目標

- 助動詞の知識を確認する。

### 解説

#### 文法・文構造の解説と補足

\*時間に余裕があるときに、参考にしながら説明してください。その他の「文法・文構造の解説」→『MY WAY 総合英語』pp.63-76

助動詞の「形」と「意味」は、多くの文法書で取り上げられていますが、「使用場面（いつ、どのように使うか）」については、あまり取り上げられていません。適宜、「使用場面」についても教えたいところです。

#### ・must と have to の使い分け

「～しなければならない」という意味の must は話し手の判断による指示を表すときに使われます。一方、同じような意味でも、have to は外部からの影響で、状況的にやらなければいけない場合に使われます。

#### Exercise 解答・解説・訳例

##### [1]

1) ② can say

**解説** 前後の文脈に合う「～できる」という意味を表す助動詞の can を使います。

**訳例** 私の父は多くの国を旅行したことがあります。だから、12の異なることばであいさつができます。

2) ① should be

**解説** 前後の文脈に合う「～すべきだ」という意味を表す助動詞の should を使います。

**訳例** 私たちの飛行機は午後5時に出発します。だから、午後3時までには空港にいるべきです。

3) ② may

**解説** 前後の文脈に合う「～するかもしれない」という意味を表す助動詞の may を使います。

**訳例** とても寒いので、今夜は雪が降るかもしれません。

##### [2]

例

**解説** この can は「～できる」という意味です。

1) You may sit down.

**解説** この文の may は「～してよい」という意味です。

**訳例** 座ってもいいですよ。

2) Billy must be tired.

**解説** この must は「～にちがいない」という意味です。この意味の must の後ろには、多くの場合、be 動詞が置かれます。

**訳例** ビリーは疲れているにちがいない。

3) A driver should wear a seat belt.

**解説** この文での should は「～すべきだ」という意味です。「シートベルトをする」は wear a seat belt で表します。

**訳例** 運転手はシートベルトをするべきです。

##### [3]

例

**解説** この may は「～してよい」という意味です。

1) He doesn't have to finish the job today.

**解説** 「～する必要はない」は、<don't have to+動詞>で表します。<must not+動詞>は、「～してはならない」という意味になるので注意しましょう。

2) You should take your umbrella with you.

**解説** 「～したほうがよい、～すべきだ」は、should

で表します。

3) Your idea may [might] be right.

**解説** 「～するかもしれない」は、may や might で表します。

[ 4 ]

**例 1**

**解説** must ～は「～にちがいない」という意味です。be angry with ～は「～に腹をたてている」という意味です。

**訳例** 私の母は私に腹をたてているに違いありません。

**例 2**

**解説** may は「～かもしれない」という意味です。天気を表す場合には、it を主語にします。

**訳例** 屋外は寒いかもしれません。

**その他の表現例**

I can help my mother today.

「今日は母を手伝うことができます。」

I must do my homework.

「私は宿題をしなければいけません。」

You always have to smile.

「あなたはいつも微笑むべきです。」

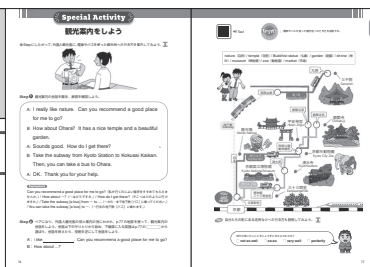
**指導事例**

段階	教科書	内容	学習形態
説明 (10分)	[p.68] <b>Examples</b>	1. Examples の文を 1 文ずつリピートさせる。それぞれの文のあとで、日本語で簡潔に文法の説明をする。 Please repeat after me. ☞ <b>ヒント</b> 必要に応じて、read and look up や、語句を空所にした英文を投影して英文を言わせるなどして、できるだけ例文を暗唱させます。	一斉
演習 (20分)	[p.69] <b>Exercise</b> 1 2 3	1. 大問ごとに Exercise に取り組ませる。まず個人で考えさせる。 Answer the questions, Exercise 1. I'll give you 1 minute. Go.  2. 生徒をペアにして、英文を 1 文で言わせながら、解答を確かめ合わせる。(大問 3 については、生徒の一人が日本語を読み、もう一人が英語で答える。) Pair up. Check the answers in pairs. Students on the window side, read No.1. Students on the hallway side, read No.2 ... (In Exercise 3, one student will read Japanese, the other student will put it into English.) Go.  3. 生徒数名に質問し、クラス全体で答えを確認する。 Let's check the answers. Question 1 goes to (名前).  * 大問ごとに 1～3 を繰り返す。	個人  ペア     一斉
展開 (10分)	<b>Exercise</b> 4	1. Exercise 4 に取り組ませる。まず個人で考えさせる。 Make your original sentences with 助動詞. Write them in your notebook. I'll give you 2 minutes.  2. 生徒をペアにして、各自が作った英文を紹介させ合う。相手の英文もノートに書き加える。時間に余裕がある場合は、ペアを組みかえて同じ手順を繰り返す。 Pair up. Take turns saying your sentences. Write your partner's sentences in your notebook.  3. 生徒が作った英文をクラス全体で共有する。 Could you tell us your sentence? How about (名前)?	個人  ペア    一斉

L  
5

授業に活かしたい英語の名言

**Special Activity**  
教科書 pp.76-77



**目標 (Special Activity)**

**目標**

- 電車やバスを使った観光地への行き方を説明する。

この単元の目標の達成度は、教科書 p.77の Special Activity の TRY で測ることができます。授業のはじめの段階で、生徒に評価基準表を配布するなどしてゴールを明確化し、それぞれの観点で、できるだけ高いレベルに到達できるように授業を進めていきます。

**評価基準表**

		A	B	C
知識・技能	表現	観光案内の表現を適切に使っている。	多少の誤りはあるが、理解に支障のない程度に、観光案内の表現を使っている。	「B」を満たしていない。
	発音・イントネーション	理解しやすい発音・イントネーションで話している。	一定の誤解や言いよどみはあるが、理解できる発音・イントネーションで話している。	「B」を満たしていない。
思考・判断・表現		電車やバスを使った観光地への行き方について、基本的な語句や文を用いて、事実や自分の考え、気持ちなどを即興で伝え合っている。	電車やバスを使った観光地への行き方について、基本的な語句や文を用いて、あまり整理されていないが情報を伝え合っている。	「B」を満たしていない。
主体的に学習に取り組む態度		電車やバスを使った観光地への行き方について、基本的な語句や文を用いて、事実や自分の考え、気持ちなどを即興で伝え合おうとしている。	電車やバスを使った観光地への行き方について、基本的な語句や文を用いて、あまり整理されていないが情報を伝え合おうとしている。	「B」を満たしていない。

**解説**

**本文訳例**

- A: 私はとても自然が好きです。私が行くのによい場所をすすめてもらえませんか。  
B: 大原はどうですか。そこには素敵なお寺と美しい庭があります。  
A: よさそうですね。そこにはどのように行けますか。  
B: 京都駅から国際会館まで地下鉄に乗ってください。そうすれば、大原行きのバスに乗れます。  
A: わかりました。教えてくれて、ありがとう。

そこへは歩いて行けますよ。」

**補充 Expressions**

\*必要に応じて、Expressionsを補充してください。

- sounds 「～のように聞こえる」

**発話例**

**Step 2**

- A: I really like markets. Can you recommend a good place for me to go?  
B: How about Nishiki Market? You can eat fish, vegetables, pickles, and Japanese cakes.  
A: Sounds good. How do I get there?  
B: Take the subway from Kyoto station to Shijo. Then you can walk there.  
A: OK. Thank you for your help.

**語句・表現の解説**

\*時間に余裕があるときに、参考にしながら説明してください。

**1. Can you recommend a good place for me to go? (L. 1)**

本 Lesson の Part 1 で学習したように、Can you ~? は聞き手の可能を尋ね、「～してもらえますか?」の意味です。

答えとして提案するときに、How about ~? 「～はどうですか?」のような表現を使います。

**2. Then, you can take a bus to Ohara. (L. 7)**

本 Lesson で学習したように、この can も「～できる」(可能)を表します。

このアクティビティで使える表現として、can の復習と関連させて、以下の表現も導入しておきます。

Then, you can walk there. 「そうすれば、あとは

今日という日ほど価値があるものはない。(ゲーテ)



**指導事例**

段階	教科書	内容	学習形態
導入 (10分)	[p.76] <b>Step ①</b>	<p>1. 教科書を閉じ、本文の音声を聞かせる。その後、以下の質問をする。</p> <p>Everyone, close your textbook. Listen to the conversation and take notes. After that, I will ask you some questions.</p> <p><b>質問例</b></p> <p>Q1 : Where are they?                      A : They are in Kyoto.</p> <p>Q2 : Where does the local person recommend to go to the foreign visitor? And why?                      A : He recommends Ohara because it has a nice temple and a beautiful garden.</p> <p>Q3 : How can she get there?                      A : Take the subway from Kyoto Station to Kokusai Kaikan. Then take a bus there.</p> <p><b>ヒント</b> リスニングの最中は、メモを取りながら聞くように促します。</p>	一斉
		<p>2. 日本語と対比させながら、本文の意味を1文ずつ確認する。適宜、語彙や文法、発音の説明を加える。</p> <p>例 : What does "I really like nature." mean in Japanese?</p> <p><b>ヒント</b> 適宜、投影資料やプリント等を使用してください。</p>	一斉
		<p>3. 教科書を開かせ、教師（ネイティブ音声）のあとで音読させる。</p> <p>Look at the conversation on page 76, and repeat.</p>	一斉
		<p>4. 生徒をペアにして、外国人観光客と案内の役に分け、音読練習をする。</p> <p>Pair up. Students on the window side, you are a local person. Students on the hallway side, you are a foreign tourist. After you finish, switch your roles. Go.</p>	ペア
展開1 (15分)	[p.77] <b>Step ②</b>	<p>・生徒をペアにして、外国人観光客と案内の役に分け、77ページの地図を見ながら観光案内の会話をさせる。</p> <p>Look at a map on page 77. This is a map of Kyoto. Create your conversation using the map.</p> <p>Pair up. Students on the hallway side, you are a local person. Students on the window side, you are a foreign visitor. After you finish, switch your roles. Go.</p> <p><b>ヒント</b> 京都についてよく知らない生徒もいるかもしれませんが、想像力を使って会話を楽しむように促します。</p>	ペア

展開2 (15分)	<b>TRY</b>	<p>・地元の地図を配布する。生徒をペアにして、外国人観光客と案内の役に分け、地図を見ながら地元の観光案内の会話をさせる。</p> <p>This is a map of our town. Create your conversation using the map.</p> <p>Pair up. Students on the window side, you are a local person. Students on the hallway side, you are a foreign visitor. After you finish, switch your roles. Go.</p> <p><b>ヒント</b> 学んだ語彙や表現、アイコンタクトやジェスチャーをできるだけ使いながら、会話を展開するように促します。</p> <p><b>ヒント</b> 「展開2」として、ペアの相手をかえながら「展開1」と同じ活動を繰り返すのもよいでしょう。</p>	ペア
振り返り (5分)		<p>・「自己評価シート」を用いて、各々の生徒に自己評価を促す。</p> <p>Everyone, evaluate yourself with the rubric sheet.</p>	個人

**Q** 失礼な質問かもしれませんが、教師が中途半端な英語を話して授業をするのではなく、日本人の教師はしっかり日本語で説明して、ネイティブスピーカーの録音の英語で生徒たちは学ばよいのではないかと思っています。そのようなやり方についてどう思いますか。

私自身は、授業で一番大切なことは、先生が日本語で話すか、英語で話すかということよりも、生徒の口と頭が動く授業をしているかどうかだと思います。先生が英語を喋りまくっていても、生徒が英語を使っていない授業は失敗だと思います。生徒が授業内で英語を使うという目標を達成できていれば、まずは合格です。

さて、その目標を達成するためには、先生自身が学習者のモデルを示すことが大切だと思います。技術不足なのかもしれませんが、ネイティブスピーカーの音声だけで、生徒をのせて活発に活動させることは私にはできません。だから、生徒の前では、先輩の学習者として英語を話すようにしています。  
 【安河内】